

第1回医事業務研究会 (新任者教育基礎講座No.1)

- 日 時 令和7年10月14日(火) 10:00～16:00
- 開催方法 ハイブリッド開催
(会場：岡山県医師会館 401会議室・402会議室)
- 出席者 35病院 56名 (うち会場30名)、委員12名

新任者教育基礎講座の第1日目は、許可病床が「20床～199床」、「200床以上+精神科」の2グループに分かれ、午前に「受付から請求まで」を、午後からは「診察料」と「医学管理料等」についてテキスト及びスライドを使用して講義を行った。

「受付から請求まで」の講義では業務で取り扱う様々な情報に対する守秘義務・個人情報保護法に加え、医療保険制度など医療事務を行う上での基礎知識を解説した。

「診察料」では初診料・再診料・外来診療料について算定方法や通則の解釈、加算点数の取り扱いなど具体例を交えながら説明を行った。

「医学管理等」では、数多くある医学管理料の項目の中か



▲Bグループ (200床以上、精神科) 講義風景

ら、今後関わりの多くなる項目を取り上げ内容や算定上のルールや留意点などを説明した。

各講義の最後には練習問題を解き、回答と解説を行うことで受講者の知識を深めた。

(医事業務委員 南石良子)

第2回医事業務研究会 (新任者教育基礎講座No.2)

- 日 時 令和7年10月24日(金) 10:00~16:00
- 開催方法 ハイブリッド開催
(会場：岡山県医師会館 401会議室・402会議室)
- 出席者 34病院55名(うち会場30名)、委員13名

第2回は、「在宅医療」「投薬」「注射」「処置」について講義を行った。

「在宅医療」では、往診料と在宅患者訪問診療料の違いや、令和6年度の診療報酬改定で新設された救急患者連携搬送料の解説、在宅療養指導管理料の代表的な項目を取り上げ、算定における留意点を解説した。

「投薬」では、薬剤の区分と見分け方、調剤料や処方料、

処方箋料の算定における留意点、薬剤料の計算方法(五捨五超入)等について解説した。

「注射」では、入院と外来、6歳未満の乳幼児などの注射実施料の算定方法の違い、薬剤料の計算方法(五捨五超入)、特定保険医療材料料などについて解説した。

「処置」では、処置の種類、通則や通知、基本的な算定の留意点などを解説した。

各講義の最後には、スポット例題を用いて点数計算やレセプト記載方法等の解説を行い、さらなる内容の理解に努めた。

(医事業務委員 難波龍鋭)

第3回医事業務研究会 (新任者教育基礎講座No.3)

- 日 時 令和7年10月29日(水) 10:00~15:50
- 開催方法 ハイブリッド開催
(会場：岡山県医師会館 401会議室・402会議室)
- 出席者 33病院 54名 (うち会場30名)、委員12名

第3回は、「手術」「麻酔」「検査・病理診断」について、ハイブリッド形式で講義を行った。

「手術」では、手術料に含まれる処置費用や注射の手技料、施設基準の届出が必要な場合があることなど、手術の基本的事項を通則に沿って説明した。また、対称器官・同一手術野等の考え方について、具体例を用いて解説した。

「麻酔」では、各種麻酔を算定する際に注意すべきポイント

を中心に説明を行った。

「検査・病理診断」では、通則や算定上の一般的事項を中心に、検体検査・生体検査および病理診断の算定における留意点を解説した。また、悪性腫瘍が疑われて行った検査の後に確定診断され、医師が治療計画を行った場合は、医学管理料で算定する方法についても解説した。

各講義の最後には、点数計算やレセプト記載方法などの練習問題を、講師が解説を交えながら解答することで内容の理解を深めた。

(医事業務研究会 佐藤由香)

第4回医事業務研究会（新任者教育基礎講座No.4）

- 日 時 令和7年11月14日(金) 10:00~16:00
- 開催方法 ハイブリッド開催（会場：岡山県医師会館 401・402・502会議室）
- 出席者 36病院55名（うち会場29名）、委員14名

第4回は、病院機能別グループ(急性期(DPC含む)、ケアミックス、精神科)に分かれて講義を行った。午前は「画像診断」と「リハビリテーション」について、午後は病院機能別入院料について講義を行った。研究会の最後には、全4回の講義に出席した受講者(計52名)に修了書を授与した。

【画像診断・リハビリテーション】

「画像診断」では、エックス線診断料、核医学診断料、およびコンピューター断層撮影診断料の通則、算定上の留意点、ならびに算定における解釈について説明した。また、算定例を提示しながら、点数の内訳を解説した。「リハビリテーション」では、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の役割について説明した。さらに、疾患別リハビリテーションの通則、対象疾患、標準的算定日数、各種加算などを中心に解説した。各講義の最後には、講師と受講者が共にスポット例題を解き、内容の理解を深めた。

(医事業務委員 安部雅之)

【急性期(DPC含む)グループ】(16病院31名出席)

急性期グループでは、入院料を算定するための基本的な考え方について解説を行った。入院料の構造、入院基本料等加算、入院時食事療養費など、入院料算定の基礎となる項目を中心に概要説明を行った。特定入院料については、特定集中治療室管理料や地域包括ケア病棟入院料を例に、算定要件および包括項目の違いを解説した。また、自院が担う役割や施設基準の確認が重要であることを共有した。DPCに関しては、制度の概要、診断群分類の構成、診断群分類が決定されるまでの考え方と流れ、DPC/PDPS算定における包括範囲や医療機関別係数の仕組みについて解説した。これらの内容について、例題を用いて理解を深めた。

(医事業務委員 美甘由美子)

【ケアミックスグループ】(18病院22名出席)

ケアミックスグループでは、入院料算定の基本として、入院治療計画の策定や療養環境の提供、医療安全及び感染防止対策や褥瘡対策などを説明した。また、入院時食事療養費や外泊の考え方、入院中の他医療機関受診時の入院料減算など、入院基本料算定の一般的事項と急性期医療を担う一般病棟入院基本料について詳しく説明した。

特定入院料では、地域包括ケア病棟入院料を主に引き上げ、算定要件と在宅復帰を支援する回復期医療について説明した。慢性期医療とされる療養病棟入院基本料では、従前より細分化された患者の疾病・状態に係る医療区分、

処置等に係る医療区分、ADL(日常生活動作)区分を用いた入院料の選定方法について説明した。DPCでは、制度導入の経緯から診断群分類の概要、ツリー図を使用したコーディングを例に実際の算定方法や基礎構造について説明した。

(医事業務委員 平内大輔)

【精神科グループ】(2病院2名出席)

精神科グループでは、精神科専門療法についてテキストに沿って説明した。入院・外来の精神療法算定についての違いや算定方法を説明した。加算の条件など基本的な考え方、精神科独自の考え方も併せて解説を行った。入院料では通則について話したのち、精神科病棟入院料・特定入院料の違い、加算・包括について解説をした。具体的な点数をあげ加算についてもそれぞれ算定点数を示し説明を行った。外泊(精神科独自のこと)など一般科との違い等を理解した後、スポット例題を解き内容の理解を深めた。

(医事業務委員 石田浩子)



▲4回継続受講者(左)へ修了書授与



▲講師の医事業務委員の皆さん